

CIC 時のトラブル

泌尿器科上田クリニック
院長
上田朋宏

CASE

現役で警備会社に勤める 86 歳高齢男性。日に 30 回の頻尿。前立腺肥大症で尿閉を繰り返し間欠的自己導尿（CIC）による排尿管理を開始しました。自己導尿の手技に問題はありません。

ところが、ある日電話があり、以下のような訴えがありました。

- ①自尿が出ない
- ②導尿しても尿意が強い
- ③血尿が出る

医師は G さんにすぐ来院するように指示しました。



トラブルの原因

G さんは自己導尿ばかりすると自排尿がなくなると思い込んでいました。会社で導尿しているのを知られたくないことも導尿の回数を減らす原因でした。導尿指導時に、高齢であるが故にネラトンカテーテルや採尿コップの準備を説明し過ぎ、しかも会社のトイレが和式で導尿しにくい環境でした。

自己導尿回数が減ると常に残尿が増えて腹圧で自排尿が出ます。G さんはそれが自排尿と考

えてしまいます。しかし、実際は残尿が多く、腹圧をかけることで膀胱内圧が上昇します。膀胱尿管逆流（VUR）が生じることもあり、尿路感染症や腎機能障害を起こすリスクがあります。

そのまま放置しておく、導尿カテーテルを 2～3 ヶ月ぐらいもらった後来院しなくなります。そのうち尿路感染症を併発します。その場合、尿意が増強し「導尿しても残尿感がある」と訴えます。こういう症状が出た場合は、早めの受診を指導しておきます。



トラブル回避法

前立腺肥大症があるため、細いカテーテル（8～10Fr）で導尿指導する場合があります。しかし、外尿道口からカテーテルを入れると括約筋の手前の膨大部（尿道の広がっている部分）で無理に挿入することで傷をつけたり、偽尿道を作ってしまう場合があります。肉眼的血尿になることもあります。実際は、太いカテーテル（12～14Fr）を使用してゆっくり挿入した方がうまく

いく場合が多いのです。

前立腺肥大症がある場合も、奥まで入れないと導尿しても残尿が生じる場合が多いようです。奥まで挿入して少しずつ抜いてくる自己導尿の仕方を指導しましょう。

また出張や旅行時にネラトンカテーテルが足りなくなると自己導尿しなくなる方もいます。いつ災害が起こるか分かりません。カテーテルは水道水で洗っても使えますし、導尿しないことによる不利益を常に指導しておきましょう。

まとめ

- 導尿の回数を減らすと水腎症、腎不全を起こす場合があります
- 尿路感染（腎盂腎炎や精巣上体炎をよく起こす）の初期症状は尿意亢進です
- 導尿量は400mLまでに、導尿回数を調整しましょう
- 排尿日誌で自尿、残尿量を確認し水分摂取を指導しましょう
- 超音波で水腎症の有無をチェックしましょう
- 血液検査で腎機能をチェックしましょう

上田朋宏（うえだ・ともひろ）

泌尿器科上田クリニック

〒604-8172 京都府京都市中京区烏丸姉小路下る場之町
599CUBE OIKE6 階